

No.	問22 介護の仕事についての能力を高めた経験
31171	身体介護おむつ交換ありとの事で仕事に入ったが、声かけにより車椅子移乗、トイレでの介助に変化していった。状況を見ながら声かけ誘導の大切さを知ったケースがあった。
31177	入院中の「要介護度5」の方のお世話を約1年しましたが(今は亡くなりました)、少しずつお世話の仕方が体力の減退にたがって変わっていききました。特に食事介助でしたが、次第にのみ込みにくくなったり、むせたりしてきましたので、それに応じての対処、また話し相手としても次第に気になれなくなってきたりしました。
31182	私は厚生労働省指定教育訓受講習制度でヘルパー2級の資格を取ったばかりで、経験がまだ少ないのですが、現在所属している所ではいつでも相談・指導して下さるので助かります。
31183	ベテランについて仕事に入った時、新しい発見がある。
31185	介護の仕事について10ヶ月で、経験浅くて何とも言えないが、家庭の主婦として数10年、また両親の看護経験、主婦として女性としてかわってきた活動の種々の経験は、介護という仕事について、家事の分野にしる介護の分野にしる、かなり具体的に生きていると思う。また数10年にわたる活動の中での人間関係などから、よく見たり、聞いたり、判断して実行したりという能力が、知らずに身に付いていたのかと、いま介護の現場に立って、過去の活動に感謝している次第です。
31186	仕事を始めた最初の頃は、経験豊かなヘルパーさんと同行して実務を見習う機会がありましたが、最近は初めからいきなり1人で利用者さん宅に行き、ケアをするようになりました。利用者さんの介護をしている家族の方から直接実務指導を受けます。それぞれ家庭によってやり方が違うので、このようなケースもあつていいのだと思います。しかし、基礎知識は必要だと思ひ、現在ホームヘルパー2級を受講中です。
31190	すべての経験が、自分の能力のみならず、人生のためにもよい経験になっている。
31191	まだ、経験が浅いのでそこまでいってません。
31202	実務の中で利用者さんと接することで能力が高められます。痴呆の硬直の方で、接するうちにどうしたら一番軽い持ち方ができるかなど。
31204	実際に介護という仕事をしたことがないのでわかりません。
31207	まだ、始めたばかりなので特にありません。
31209	どんな方とも初対面で打ち解けられるようになった。これはヘルパーを経験したからだと強く思います。技術的には特に高めたとは思いません。自分が持てる能力(経験したこと)のみで6年間やって来ました。自然体でした。
31223	介護の仕事では(このアンケートでも)常に技術的なことはかなりヘルパーとしての技量を図られているように思いますが、一番求められているのは心のつながりではないでしょうか？ 心と心が結びついたと思える関係の中では、身体介護も家事もうまくいき、その方に合った介護にどんどんなっていく、ヘルパーとしての能力も磨かれます。技術が先に立つ介護はしたくないと思っています。
31225	レバレッジ研修を受けたこと。重介護の利用者さん宅での経験の積み重ね。個人的生活に於ける介護経験・定例会等で他の人の経験、相談事等を聞いたこと。
31227	精神保健に関する学び・様々なボランティア活動。
31229	先輩の介護現場を見学させてもらい、客観的に介護の現場を見ることができた時。普段は1対1の介護なので、はたして自分の介護が適切なのかなかなか判らないので、第三者に客観的にみてもらいたい。
31230	この18年間に培ってきた介護技術を私自身への親の在宅介護に生かすことができたこと、安らかな旅立ちの日はいよいよ先頃のこと、さみしさはまだ消えませんが、精一杯できたことを自分自身に感謝しています。
31233	実母を10年間自宅で看取することで、いろいろな体験させてもらいました。そのことが今の仕事に非常に役に立っており、いい意味での自信になっております。
31234	介護の仕事(家事を含めて)は、個々によって対応が異なるもので、講義を受けただけではうまくはいかないと思う。もちろん、知識として持っていることは必要だと思ひが、基本的には知識を得たら、とにかく活動の中で学んで来た自分自身で思っている。
31235	利用者それぞれから学ぶことが多かったです。先輩から引き継ぎがあると、仕事につくのにもとも助かりました。特に身体介護については、利用者の家族からの注文、本人の希望など具体的に指示されたことでくり返し学び身についていたと思ひますが、みんな同じでなく個々が違うので(環境、症状など)、難しい点もあつりますが、注意する習慣・確認などを身につけたと思ひます。

No.	問22 介護の仕事についての能力を高めた経験
31236	週一度行っているディサービスでの経験(12年)、ウォルキング上大岡での研修講座。
31237	利用者との接し方で最初に接した場合と、段々とコミュニケーションがとれて来た時では、掃除一つでも仕方(掃除)を違えて行う。料理の場合は、嗜好が違っているので、お話をしながら味なり嗜好を見つけてながら料理をする。
31240	私の母親が自宅で5、6年寝たきりに近い状態になりましたので、自分で介護をしながらいろいろ経験しました。母が亡くなった後、今のグループ、助け合いの会に入り、介護の仕事につきながらホームヘルパーの資格を取らせてもらい、その中で施設での実習や講習で技術を教えてもらいました。保健所や会での講習会(介護についての)に積極的に参加するようにしました。
31241	ホームヘルパー2級資格取得後研修・訪問看護。
31251	今、担当している利用者の方との関係の中で、一つ一つの経験の向上につながったと思います。
31256	看護師としての5年間の経験。
31257	自分の祖母(8年寝たきり)、実母(3年介護)、主人(2年介護)の経験をしてきたが、仕事として他人の世話をさせて頂くことになり、緊張と誠意を持って接することの大切さをより痛感している。
31266	研修や講習会に参加することも大切だが、やはり利用者の方や家族の方に教えていただいたことが、一番役に立っている。
31267	昭和50年に痴呆の(夫の母)姑を在宅看護で(1年3ヶ月)看取った経験を生かし、友人にすすめられてヘルパー3級の資格を取り、現在は主に痴呆の方との対話のお仕事しております。其のおかげで忍耐強くなりました。
31268	寝たきりの方の介護をしていて、相手の心の開きも、言葉使いのTPO、介護技術、調理の工夫等、とてもいい勉強をさせていただいています。年令が近いのは、強味かもしれません。
31272	利用者と長年付き合う内に、利用者の変化に合わせて、介護が学べた。

## 介護の仕事と能力に関するアンケートのお願い

平成 14 年 8 月

「介護関連分野における雇用・能力開発指針の策定に係わる研究会」では、厚生労働省の研究費を受け、2000 年度から 3 ヶ年計画で、介護の仕事と能力の対応モデルを示すとともに、能力開発型の人事処遇制度を提案することを目的として、調査研究を進めています。

このアンケートは、直接介護業務に携わる皆さまを対象に、仕事の内容、仕事を行う能力、仕事に対する意識などをおうかがいし、介護サービスに携わる人の視点からみて魅力ある人事処遇制度のあり方を検討するための基礎資料とするものです。

お忙しいなかたいへん恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、この調査は無記名式で、ご記入いただいた回答結果は、統計的に処理いたしますので、個々の回答が特定されることはございません。どうぞありのままをご記入ください。

厚生科学研究（政策科学推進研究事業）

「介護関連分野における雇用・能力開発指針の策定に係わる研究会」

主任研究者 小笠原浩一（埼玉大学経済学部 教授）

分担研究者 佐藤 博樹（東京大学社会科学研究所 教授）

林 大樹（一橋大学大学院社会学研究科 教授）

大木 栄一（日本労働研究機構研究所 副主任研究員）

研究協力者 工藤 健一（一橋大学大学院博士課程）

堀田 聰子（UFJ 総合研究所 研究員）

### ご記入にあたってのお願い

- この調査の対象になるのは、直接介護業務に携わる方々です。普段は事務所に勤務される管理職の方であっても、交代要員や突発的なできごとに対応するため、ときに直接介護業務を担当することがある方も対象となります。
- お手数ですが、すべての質問についてご記入ください。
- ご記入は黒または青のボールペン、万年筆、濃い鉛筆をご使用ください。
- 数字での回答は、直接、□の中に記入してください。回答項目が用意されている場合は、あてはまる項目の番号に○印をつけてください。間によっては、回答を自由にご記入頂くものもあります。また、「その他（ ）」にあてはまる場合は、ご面倒でもなるべく詳しくご記入ください。
- ご記入頂きましたアンケート用紙は、回収用封筒に入れ、封をして、**8月15日（木）までに指示された場所**にお戻しくください。

## 介護の仕事に係わる職業能力について

問1 あなたは、下表にあげる食事介助など介護各分野のそれぞれの仕事 a,b,c を、ひとりで（上司や先輩・同僚の指示なしに）どの程度できますか。「実務経験があり確実にできる：5」～「実務経験なし・ほとんどできない：1」の5段階の中から1つを選び、該当する番号に○をつけてください。

仕事例		実務経験があり 確実にできる(5)	実務経験があり かなりできる(4)	実務経験があり だいたいできる(3)	実務経験があり 少しできる(2)	実務経験なし・ ほとんどできない(1)	無回答
		90点以上	70～80点	50点前後	20～30点	10点以下	
食事介助	a 食べやすいよう食事をセッティングし、利用者の身体状況にあった姿勢を確保すること。 N=914	14.9%	25.6%	45.0%	10.9%	2.4%	1.2%
	b 嚥下・咀嚼状態を見ながら利用者のペースにあわせて介助すること。 N=914	15.3%	26.9%	42.7%	10.9%	2.7%	1.4%
	c 嚥下障害や硬直、痴呆など、通常の摂食が困難な利用者の身体・精神 状況に合わせた介助をすること。 N=914	9.4%	20.7%	43.1%	17.8%	7.3%	1.6%
排泄介助	a 環境を整え、必要物品を準備して、羞恥心に配慮しながら利用者の排泄の見守り・一部介助を行うこと。 N=914	18.8%	31.5%	40.9%	7.0%	0.9%	0.9%
	b ポータブルトイレでの排泄介助やおむつ着脱を行うこと。 N=914	20.1%	28.7%	35.8%	9.0%	5.5%	1.0%
	c 利用者の排泄パターンを把握し、状況にあわせた排泄介助を行うこと。 N=914	13.5%	27.4%	42.8%	11.8%	3.1%	1.5%
更衣介助	a 環境を整え、必要物品を準備して、羞恥心に配慮しながら利用者の更衣の見守りを行うこと。 N=914	21.7%	32.6%	37.6%	5.8%	1.1%	1.2%
	b 麻痺や硬直などを考慮し、無理のない着脱方法を工夫すること。 N=914	15.1%	29.5%	40.8%	10.7%	2.6%	1.2%
	c 痴呆や精神障害がある利用者に対し、適宜声かけをしながら更衣介助を行うこと。 N=914	16.6%	28.9%	40.6%	9.6%	2.8%	1.4%
入浴介助	a 環境を整え、必要物品を準備して、羞恥心に配慮しながら利用者の入浴・シャワー浴の見守りを行うこと。 N=914	22.1%	31.7%	37.4%	5.6%	2.2%	1.0%
	b 麻痺や硬直がある利用者からの指示に従った入浴介助を行うこと。 N=914	15.2%	28.9%	39.2%	10.0%	5.8%	1.0%
	c 転倒につながる危険を予測し、常に利用者と自分の体勢の安定・安全に配慮すること。 N=914	14.8%	30.9%	39.6%	10.2%	3.0%	1.6%
清拭	a 環境を整え、必要物品を準備して、羞恥心に配慮しながら部分清拭を行うこと。 N=914	13.6%	27.0%	42.2%	11.3%	4.7%	1.2%
	b 湯温と体温を確保しながら手早く全身清拭を行うこと。 N=914	10.8%	19.1%	42.2%	17.9%	8.6%	1.2%
	c 障害の状況だけでなく、当日の体調を考慮して清拭方法を変えること。 N=914	9.2%	19.4%	41.0%	17.4%	11.5%	1.5%
ベッドメイク	a 空ベッドで、シーツにしわをつくらず、寝具の中心線をあわせてベッドメイクを行うこと。 N=914	28.1%	27.1%	33.5%	7.5%	2.5%	1.2%
	b 利用者がベッドにいる状態でベッドメイクを行うこと。 N=914	12.6%	18.6%	29.3%	18.8%	19.7%	1.0%
	c 利用者がベッドにいて、医療処置が行われている状態でベッドメイクを行うこと。 N=914	5.7%	10.3%	23.5%	15.0%	44.2%	1.3%

	仕事例	実務経験があり 確実にできる(5)	実務経験があり かなりできる(4)	実務経験があり だいたいできる(3)	実務経験があり 少しできる(2)	実務経験なし・ ほとんどできない(1)	無回答
		90点以上	70~80点	50点前後	20~30点	10点以下	
体位変換	a 体位を変換し、安定した体位を確保すること。 N=914	12.7%	28.8%	38.9%	13.1%	5.3%	1.2%
	b 床ずれ・麻痺に配慮し、利用者に苦痛を与えずに体位変換すること。 N=914	7.5%	22.5%	42.5%	17.1%	9.4%	1.0%
	c 利用者の身体・精神状況にあわせ、適切なタイミングで、利用者の安楽を確保しながら体位変換を行い、床ずれ予防や気分転換を図ること。 N=914	8.4%	20.1%	41.6%	18.4%	9.6%	1.9%
移乗介助	a 車椅子を適切な場所にセッティングし、利用者のベッド⇄車椅子の移乗を見守ること。 N=914	19.1%	31.0%	39.4%	7.3%	1.6%	1.5%
	b 利用者の身体状況にあった方法で、タイミングをはかって移乗介助を行うこと。 N=914	16.4%	29.8%	41.5%	9.0%	2.0%	1.4%
	c 利用者の残存能力を維持・活用できるよう、適宜声かけをしながら移乗介助を行うこと。 N=914	15.3%	31.0%	41.9%	8.8%	1.8%	1.3%
外出介助	a 安全な方法・経路を選んで外出介助すること。 N=914	14.4%	26.8%	41.7%	10.2%	5.6%	1.3%
	b 利用者の希望だけでなく、当日の天候・体調等を考慮して外出の提案を行うこと。 N=914	14.1%	26.5%	39.8%	11.6%	6.8%	1.2%
	c 経路と利用者の身体状況の両面からリスクを常に予測して回避し、万が一予想外の出来事が起きても、適切に判断し、対処すること。 N=914	6.8%	19.4%	39.7%	19.3%	13.6%	1.3%
掃除	a 時間内に決められた手順で掃除を行うこと。 N=914	20.9%	31.1%	38.4%	6.2%	2.3%	1.1%
	b 利用者とのコミュニケーションを欠かさずに掃除を行うこと。 N=914	17.6%	29.9%	41.4%	7.2%	2.7%	1.2%
	c 掃除を通じて住生活の問題を発見し、関係者との連携をはかること。 N=914	11.9%	26.1%	43.1%	12.3%	4.7%	1.9%
余暇活動	a 安全に配慮し、決められたプログラムの援助を行うこと。 N=914	9.5%	21.8%	48.0%	13.9%	5.1%	1.6%
	b 利用者の個別性にあわせて、プログラムを調整したり、援助方法を変えること。 N=914	7.2%	19.6%	45.5%	17.4%	8.5%	1.8%
	c 参加者の身体・精神状況、生育歴にあわせて、気分転換・ふれあい・リハビリなど目的に応じた楽しい企画を立案すること。 N=914	5.8%	17.5%	43.0%	20.9%	10.9%	1.9%
健康チェック	a 利用者に質問することにより、体調を確認すること。 N=914	11.9%	29.9%	43.3%	11.8%	2.1%	1.0%
	b 介助中の観察(顔色・表情・皮膚や排泄物の色や状態など)を通じて、体調を把握すること。 N=914	9.7%	27.5%	43.1%	15.3%	3.3%	1.1%
	c 利用者の障害・既往歴等をふまえ、リスクを予測して適宜体調を確認すること。 N=914	6.2%	21.1%	43.3%	21.8%	6.2%	1.3%

		仕事例	実務経験があり 確実にできる(5)	実務経験があり かなりできる(4)	実務経験があり だいたいできる(3)	実務経験があり 少しできる(2)	実務経験なし・ ほとんどできない(1)	無回答
			90点以上	70～80点	50点前後	20～30点	10点以下	
緊急対応	a	利用者の基礎情報(障害・既往歴・服薬状況・緊急連絡先など)を正確に把握すること。 N=914	4.9%	15.9%	39.4%	28.0%	9.7%	2.1%
	b	緊急連絡が必要な場合に、観察・報告すべき内容を把握し、的確に報告すること。 N=914	6.9%	17.0%	35.2%	23.9%	15.2%	1.9%
	c	利用者の症状に応じ、すみやかに適切な応急処置を行うこと。 N=914	3.6%	11.8%	32.2%	28.2%	22.0%	2.2%
説明	a	必要な情報を利用者・家族に伝えること。 N=914	8.1%	18.3%	42.2%	22.5%	7.0%	1.9%
	b	難しい言葉や専門用語を使わず、利用者・家族に分かる言葉で説明すること。 N=914	8.0%	19.7%	40.9%	21.7%	8.0%	1.8%
	c	利用者の状況(体調・表情など)をみて、説明のタイミングや内容を変えること。 N=914	6.2%	18.1%	42.3%	22.0%	9.4%	2.0%
関係構築	a	挨拶や言葉遣い・服装など基本マナーを守り、随時声かけをするなど、利用者から好感と信頼を持ってもらえるような態度で接すること。 N=914	15.3%	30.3%	41.8%	9.8%	1.0%	1.8%
	b	必要などきにいつでも家族から情報・協力を得られるようにすること。 N=914	7.9%	21.4%	42.2%	20.0%	6.2%	2.2%
	c	自分のやり方・考えをすぐにおしつけず、利用者・家族の理解・行動を待つこと。 N=914	11.8%	26.4%	44.7%	11.9%	3.2%	2.0%
情報収集と判断	a	事務所に自ら求めるなどして、サービス提供に必要な情報を集めること。 N=914	6.8%	15.4%	43.9%	22.2%	9.2%	2.5%
	b	プライバシーに配慮し、利用者・家族に不快感を与えずに必要な情報を集めること。 N=914	7.1%	19.7%	42.6%	18.8%	9.4%	2.4%
	c	利用者・家族の意見だけでなく、客観的な状況を考慮して判断すること。 N=914	7.0%	19.4%	43.4%	19.1%	8.3%	2.7%
協働	a	サービス提供内容だけでなく、利用者の訴えや変化を介護日誌などに記録すること。 N=914	13.1%	24.0%	45.1%	13.9%	2.1%	1.9%
	b	上司や同僚などの関係者に対し、サービス提供上の問題点を報告し、自分の意見を述べること。 N=914	9.2%	22.1%	45.4%	17.7%	3.6%	2.0%
	c	利用者の価値観や生活スタイルにあった生活の実現という観点から、全体としてのサービス提供に関する改善提案を行うこと。 N=914	6.0%	20.6%	45.3%	19.7%	6.2%	2.2%

(大変お疲れさまでした。以降は、それほど時間がかかりませんので、もう少しご協力ください)

問2 あなたは、下表にあげる食事介助など各分野の仕事のそれぞれについて、新人に指導することができますか（それぞれの仕事の具体的な内容は問1と同じです）。「指導経験があり指導できる：3」～「指導経験なし・指導はできない：1」の3段階の中から1つを選び、該当する番号に○をつけてください。

	指導経験があり 指導できる (3)	指導経験はあるが うまく指導できな (2)	指導経験なし・ 指導はできない (1)	無回答
食事介助 (N=914)	43.8%	27.2%	25.5%	3.5%
排泄介助 (N=914)	49.2%	24.8%	22.6%	3.3%
更衣介助 (N=914)	51.4%	23.5%	21.9%	3.2%
入浴介助 (N=914)	48.1%	25.9%	22.5%	3.4%
清拭 (N=914)	32.2%	33.9%	30.2%	3.7%
ベッドメイク (N=914)	51.8%	21.0%	23.9%	3.4%
体位変換 (N=914)	38.5%	30.1%	27.6%	3.8%
移乗介助 (N=914)	44.6%	28.1%	23.3%	3.9%
外出介助 (N=914)	36.3%	31.1%	28.8%	3.8%
掃除 (N=914)	50.7%	24.3%	21.4%	3.6%
余暇活動 (N=914)	26.9%	37.2%	31.6%	4.3%
健康チェック (N=914)	30.2%	35.8%	30.2%	3.8%
緊急対応 (N=914)	17.0%	35.7%	43.9%	3.5%
説明 (N=914)	23.4%	37.6%	34.6%	4.4%
関係構築 (N=914)	22.1%	37.7%	35.9%	4.3%
情報収集と判断 (N=914)	20.4%	39.2%	36.4%	4.0%
協働 (N=914)	28.0%	36.4%	31.4%	4.2%

**これまでの職業経歴について**

問3 初めて介護の仕事に応募した当時、あなたは何をしていましたか。該当する番号 1つ に○をつけてください。 N=914

1. 正社員として働いていた	23.0%	4. 専業主婦だった	15.5%
2. パートなど非正社員として働いていた	35.3%	5. 学生で、働いていなかった	17.5%
3. 家業に従事していた	4.6%	無回答	4.0%

問4 介護の仕事の経験についておうかがいします。枠内に数字を記入してください。

a) 今の勤務先での経験年数 N=901 (平均値) **13.25** カ月 (標準偏差: 14.26)

b) 以前の勤務先を含めたこれまでの通算経験年数 N=861  
(今の勤務先の前に介護の仕事経験がない場合は、a) と同じ年数を記入してください)

(平均値) **31.91** カ月 (標準偏差: 36.65)

問5 あなたはこれまで (以前の勤務先も含めて) 在宅・施設のどちらで仕事をしてきましたか。該当する番号 1つ に○をつけてください。 N=914

1. 在宅のみ	4.4%	4. 在宅もあるが施設が主	10.8%
2. 施設もあるが、在宅が主	3.9%	5. 施設のみ	61.3%
3. 在宅と施設を同程度	5.4%	無回答	14.2%

**現在の所属先や勤務状況について**

問6 あなたの過去 1カ月間 の勤務日数は何日でしたか。枠内に数字を記入してください。 N=878

(平均値) **18.63** 日 (標準偏差: 9.22)

問7 あなたは、働く日数や時間について希望がありますか。該当する番号 1つ に○をつけてください。 N=914

1. 今のままでよい	59.1%	3. 減らしたい	19.3%
2. 増やしたい	10.7%	4. 日数や時間に関する希望はない	9.5%
		無回答	1.4%



問8 あなたが現在所属（登録）している事業者を選んだ理由を選択肢から選び、枠内に記入してください。

a) あてはまるものすべて

N=914

<選択肢>

1. 介護に対する考え方に共感したから 62.5%	10. 職場の人間関係が良さそうだから 24.8%
2. 勤務地が近いから 61.2%	11. 組織風土が自分にあいそうだから 15.3%
3. 自分の都合にあわせて勤務時間が決められるから 15.1%	12. その事業者の社会的地位が高いから 15.8%
4. 勤務時間が短いから 2.6%	13. 社会や地域に貢献しているから 7.8%
5. 休みが多いから 4.3%	14. その事業者の人が熱心に入社をすすめてくれたから 4.2%
6. 給与・賞与などの待遇がよいから 2.8%	15. 現在の事業者しか就職できなかったから 4.6%
7. 成果・能力で給与や昇進が決まるから 1.1%	16. その他 10.6%
8. 研修が充実しているから 5.8%	(具体的に: )
9. 家族や知人がすすめてくれたから 12.0%	17. 特別な理由はない 3.8% 無回答 1.4%

b) 最もあてはまるもの1つ

N=914

<選択肢>

1. 介護に対する考え方に共感したから 35.8%	10. 職場の人間関係が良さそうだから 4.5%
2. 勤務地が近いから 27.0%	11. 組織風土が自分にあいそうだから 2.3%
3. 自分の都合にあわせて勤務時間が決められるから 3.3%	12. その事業者の社会的地位が高いから 1.5%
4. 勤務時間が短いから 0.2%	13. 社会や地域に貢献しているから 0.8%
5. 休みが多いから 0.3%	14. その事業者の人が熱心に入社をすすめてくれたから 1.3%
6. 給与・賞与などの待遇がよいから 0.1%	15. 現在の事業者しか就職できなかったから 1.3%
7. 成果・能力で給与や昇進が決まるから 0.3%	16. その他 7.1%
8. 研修が充実しているから 0.8%	(具体的に: )
9. 家族や知人がすすめてくれたから 3.8%	17. 特別な理由はない 1.1% 無回答 8.4%

問9 あなたの雇用形態についておうかがいします。

a) 正社員ですか (○は1つ) N=914

1. 正社員である	39.9%	→問10に進んでください
2. 正社員ではない	57.9%	無回答 2.2%

「2. 正社員ではない」と回答した方のみにおうかがいします。

▶b) あなたが働いている週当たりの労働時間は、正社員と同じですか (○は1つ) N=529

1. 正社員と全く同じ	28.0%	3. 正社員より短い	55.0%
2. 正社員とほぼ同じ	15.7%	無回答	1.3%

問10 あなたの給料は、どのように支払われていますか。該当する番号1つに○をつけ、その金額を記入してください。 N=914

1. 時間給(32.3%)	⇒ 1時間あたり (平均値)	915.33	円 (標準偏差:84.00) N=291
2. 月給(61.5%)	⇒ 1カ月あたり(平均値)	169,538.54	円 (標準偏差: 27,773.55) N=548
(諸手当・交通費除く)			
3. その他(0.1%)	⇒例えば「日給で1日 8,000 円」などと具体的に記入してください		
無回答(6.1%)	( )		

問11 あなたの先月の税込み月収(交通費除く)はいくらでしたか。枠内に金額を記入してください。なお、残業手当のある方は、その収入を入れてお答えください。 N=763

(平均値) 144,966.88 円 (標準偏差: 59,940.47)

問12 あなたは現在、年収が一定額を超えないように労働時間などを調整して働いていますか。該当する番号1つに○をつけてください。 N=914

1. 調整している	17.9%	3. わからない	9.0%
2. 調整していない	69.8%	無回答	3.3%

**介護の仕事をする上で必要な知識や技術、能力開発について**

問 13 あなたが現在お持ちの資格のすべてに○をつけてください。N=914

1. ホームヘルパー1級 4.4%	9. 保育師(保父、保母) 5.0%
2. ホームヘルパー2級 78.7%	10. 理学療養士・作業療養士
3. ホームヘルパー3級 3.4%	11. 管理栄養士・栄養士 1.9%
4. 介護福祉士 15.2%	12. 調理師 2.5%
5. ケアマネジャー 1.2%	13. 教員 8.0%
6. 社会福祉士 0.2%	14. その他の医療・介護・福祉関連の公的資格 10.3%
7. 看護師・准看護師 2.2%	(具体的に: )
8. 保健師 0.1%	無回答 4.7%

問 14 問 13 にあげた資格の中で、今後あなたが取得したいと考えているものはありますか。該当する番号 1つ に○をつけ、取得したい資格がある方は、その資格についてもお答えください。

N=914

1. 取得したい資格はない 15.3%	無回答 4.0%
2. 取得したい資格がある 80.6%	⇒取得したい資格を問 13 の資格番号で(2つまで) N=737
1. ホームヘルパー1級 12.2%	9. 保育師(保父、保母) 3.1%
2. ホームヘルパー2級 2.0%	10. 理学療養士・作業療養士 8.0%
3. ホームヘルパー3級 0.1%	11. 管理栄養士・栄養士 1.2%
4. 介護福祉士 63.0%	12. 調理師 2.3%
5. ケアマネジャー 44.5%	13. 教員 0.8%
6. 社会福祉士 13.4%	14. その他の医療・介護・福祉関連の公的資格 4.3%
7. 看護師・准看護師 3.9%	(具体的に: )
8. 保健師 0.3%	無回答 0.1%

問 15 研修などの教育訓練についておうかがいします。以前の勤務先も含めてお答えください。

(A 欄) 下表の a.b.c. にあがるような教育訓練を受けましたか (○は 1 つ)。

(B 欄) 受けた場合、それは役立っていますか (○は 1 つ)。

教育訓練の例	A 欄		A 欄無回答	B 欄				B 欄無回答
	受けていない(1)	受けた(2)		役立っている(4)	(3) まあ役立っている	いない(2)	あまり役立っていない(1)	
a. 初期研修(採用時の基礎的な訓練) A 欄:N=914、B 欄:N=760	13.3%	83.2%	3.5%	51.1%	36.2%	10.3%	1.3%	1.2%
b. 実務の中での上司・同僚からの指導 A 欄:N=914、B 欄:N=803	8.2%	87.9%	3.9%	71.5%	24.7%	2.0%	0.6%	1.2%
c. 日常の仕事を離れた研修や講習会 A 欄:N=914、B 欄:N=489	42.2%	53.5%	4.3%	46.8%	37.6%	10.8%	2.9%	1.8%

問 16 あなたは、おもに能力開発に関連して、現在所属(登録)している事業者に対して、つぎのような希望を持っていますか。該当する番号すべてに○をつけてください。N=914

1. 介護の能力を適切に評価する仕組みを作ること(能力の違いを賃金に反映させる等)	29.9%
2. 介護の能力に見合った仕事に配置すること	26.7%
3. 働き方や仕事内容について上司と相談する機会を設けること(増やすこと)	43.7%
4. 実務の中で、ベテランから指導を受ける機会を設けること(増やすこと)	50.8%
5. 有料の研修や講習会を開くこと(増やすこと)	16.8%
6. 無料の研修や講習会を開くこと(増やすこと)	60.2%
7. 施設での介護を経験する機会を設けること	19.0%
8. 在宅での介護を経験する機会を設けること	7.5%
9. 1. ~8. のような希望は持っていない	6.1%
無回答	4.8%

問 17 あなたの介護の仕事についての能力を高めた経験について、自由に記入してください。

問 18 介護の仕事をする上で必要な知識や技術についておうかがいします。

(A 欄) あなたは、下表にあげる知識や技術を習得するためには、実務経験だけでなく、研修や講習会が不可欠だと思いますか。1～12 のうち研修や講習会が不可欠とお考えのものすべてに○をつけてください。 N=914

(B 欄) 下表にあげる知識や技術のなかで、あなたが身につけたいと思うものはありますか。1～12 のうち該当する番号に **3 つまで** ○をつけてください。特に身につけたい知識や技術がない場合は、選択肢 13 に○をつけてください。 N=914

	A 欄	B 欄
	不可欠なもの 研修や講習会が すべて	身につけたい 知識や技術 3 つまで
<選択肢>		
より高度な介護技術	70.9%	59.3%
高齢者・障害者の心理や生理に関する知識	68.2%	30.8%
高齢者・障害者との接し方に関する知識・技術	62.0%	24.5%
高齢者・障害者の家族との接し方に関する知識・技術	47.3%	9.3%
痴呆症状のある利用者への対応に関する知識・技術	73.4%	46.7%
福祉用具に関する知識	55.6%	10.2%
医療・保健の知識	67.8%	40.4%
介護保険とその動向に関する知識	47.9%	15.6%
勤務する地域の福祉資源に関する知識	29.9%	4.6%
円滑なチームワークのために必要な知識・技術	42.2%	11.4%
リーダーに求められる知識・技術	36.7%	13.9%
その他（具体的に： )	3.5%	1.2%
特に身につけたい知識や技術はない		0.8%
無回答	7.1%	4.9%

**働くことや介護の仕事について**

問 19 あなたが働いている理由は何ですか。最もあてはまるもの 1つ に○をつけてください N=914

1. 生活を維持するため 33.0%	5. 生きがい・社会参加のため 23.6%
2. 家計の足しにするため 7.4%	6. 余暇時間を利用するため 0.3%
3. 資格・技能を活かすため 22.6%	7. 子供に手がかからなくなったから 0.9%
4. 以前の就業経験を活かすため 4.3%	8. その他(具体的に: ) 3.9%
	無回答 3.8%

問 20 あなたが介護の仕事に就いた理由を選択肢から選び、枠内に記入してください。

a) 最もあてはまるもの すべて

N=914

<選択肢>

1. 持っている資格を活かすため 59.2%	8. 社会のために役立ちたいから 26.1%
2. これまでの家事や介護の経験を生かせるか 16.5%	9. 生活を維持するため 37.3%
3. 親や家族の介護などに役立つから 46.9%	10. 家計の足しにするため 17.6%
4. 自分も将来利用するかもしれないから 17.2%	11. 就職しやすかったから 69.0%
5. 介護の知識や技能を身につけたかったから 54.7%	12. 自分の都合のよい時間に働けるから 6.0%
6. 介護や福祉の仕事に関心があったから 73.4%	13. その他 4.8%
7. 生きがいや社会参加のため 36.3%	(具体的に: )
	14. 特別な理由はない 無回答 0.0%

b) 最もあてはまるもの 1つ

N=914

<選択肢>

1. 持っている資格を活かすため 12.7%	8. 社会のために役立ちたいから 5.3%
2. これまでの家事や介護の経験を生かせるから 1.6%	9. 生活を維持するため 7.5%
3. 親や家族の介護などに役立つから 11.4%	10. 家計の足しにするため 1.9%
4. 自分も将来利用するかもしれないから 0.7%	11. 就職しやすかったから 0.7%
5. 介護の知識や技能を身につけたかったから 9.5%	12. 自分の都合のよい時間に働けるから 0.4%
6. 介護や福祉の仕事に関心があったから 30.6%	13. その他 3.3%
7. 生きがいや社会参加のため 8.4%	(具体的に: )
	14. 特別な理由はない 無回答 1.8%

問 21 あなたは、現在所属(登録)している事業者を辞めるつもりがありますか。該当する番号 1つ に○をつけてください。 N=914

1. 近いうちにやめるつもりがある 10.2%	3. やめるつもりはまったくない 13.0%
2. 当分やめるつもりはない 41.4%	4. わからない 33.5%
	無回答 2.0%

問 22 今の事業者を辞めるかどうかは別にして、今後も介護の仕事が続けたいと思いますか。該当する番号 1 つに○をつけてください。 N=914

1. できるだけ続けたい 68.3%	3. 機会があれば、他の仕事に変わりたい 4.3%
2. しばらくは続けたい 23.2%	4. できるだけ早く、他の仕事に変わりたい 1.4%
無回答 2.8%	

### あなた自身について

問 23 あなたご自身についておうかがいします。

a) 性別 (○は 1 つ) N=914

1. 男性 14.8%	2. 女性 84.1%	無回答 1.1%
-------------	-------------	----------

b) 年齢 (平均) 36.86 歳 N=897

c) 最終学歴 (○は 1 つ) N=914

1. 中学・旧制小学・高小 2.2%	4. 短大・高専・旧制高校 18.6%
2. 高校・旧制中学・女学校 33.3%	5. 大学・大学院 13.5%
3. 専修(専門)学校 26.4%	無回答 6.0%

d) 社会福祉や介護福祉など福祉関係の大学や専門学校で勉強した経験 (通信教育を含む) の有無 (○は 1 つ。看護、医療、保育関係の学校は除きます) N=914

1. ある(現在、勉強中を含む) 30.3%	2. ない 67.8%	無回答 1.9%
------------------------	-------------	----------

e) 配偶者 (○は 1 つ) N=914

1. いる 42.5%	2. いない 56.1%	無回答 1.4%
-------------	--------------	----------

f) 世帯で最も生活費を負担している者 (○は 1 つ) N=914

1. あなたご自身 35.1%	2. あなた以外の方 62.8%	無回答 2.1%
-----------------	------------------	----------

g) お住まい  都・道・府・県 N=914

北海道 2.8%	神奈川県 35.7%	岡山県 2.3%
宮城県 8.5%	愛知県 9.6%	千葉県 0.2%
埼玉県 1.0%	大阪府 7.7%	
東京都 23.2%	兵庫県 7.8%	無回答 1.2%

アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

問17 介護の仕事についての能力を高めた経験	
10003	とにかく実務経験!!
10005	特にこれといった経験はなく、いろいろな人の介護をしているうちに自然とできるようになってきたような気がします。
10012	毎日経験していることすべて。
10016	介護講習会に参加したこと。他の施設を見学させていただいたこと。他の施設の人々との交流会。
10018	短期間でしたが、違う人達の介護(痴呆)を経験したこと。
10019	施設内は利用者本人が主体で生活の場でもあるから、どのような状況であってもその人がひとりの人間として、人権尊重・価値観社会生活を営んでいくべきだと思いました。
10021	ボランティア参加。研修・講習(無料・有料)積極的参加。他事業所の情報交換。
10022	毎日入所されている各個人によって介護方法が違います。勉強になります。
10029	図書館の本を読みあざりました。その結果介護に対する自分の理念をしっかりと持ち持つことができました。特養と療養型病床群を5年間経験したため、あらゆる病気を経験しました。
10038	たくさんの人々との出会いと別れ。
10040	ベテランの指導者について直接指導を受けられたこと。
10041	日常のすべての介助が一つ一つの実務経験で、回数を重ねることにより、確実に能力は上がっていると思う。安全に手早く適切に、高齢者に安心感を持って頂ける様に、ひとりひとりの状況に適した経験を積んでゆきたい。
10043	あらゆる仕事内容について経験が無かったので、教わることはばかりでした。口で教わったこと、見て教わったこと、今でも全部が勉強です。
10046	日々の積み重ね。ターミナルケア。他の介護員との会話。利用者本人、家族との会話。
10047	ターミナルケアの対象となる男性入居者がいらつしやり、その方のケアをするにあたり、色々な感情・問題・思惑などがありました。それを間の当たりにし、様々な喜怒哀楽があった(入居者、御家族、スタッフ)に至らぬ点多々ありました。その方にはとてもたくさん勉強をさせて頂きました。また、自分がいかに無知で無力であるかということもわかり、そういうことが全て今の自分の血肉になっていると思う。
10049	自分の行なったことのない仕事を、上司の人に見守りしてもらって自分ひとりでできた時。
10054	資格取得時に、施設で介護実習を受けたこと。現在働いている施設で先輩の指導を受けたこと。
10056	入居者の身体に変化があり、現段階での介護・接し方に不安が生じた時、同僚(仕事上は先輩)にアドバイスを求め、こうするといいいのでは、私はこうしているよ、と教えてもらったこと。
10057	入居者全員を見ることができるようになってきた。昔は周りが見えず、一人の入居者につききりになってしまった等ということもありました。
10059	死亡した時の処理、気持ちの持ち方。
10065	介護専門誌等からの事例研究や、先輩等などの介護経験談や直接の技術指導により、ヘルパー研修だけの基礎知識しかなかった私自身には大いに役立つものが多々あり、それが今の自分の介護姿勢の基盤ともなっているように思う。忙しい中で、事例検討会やケアプランの作り方等をお互いが自由に意見交換できる場が以前はあり、そのことが私を大きく成長させてもらったと思っております。現在それが無くなっているのがとても残念です。自己啓発として通信添削や定期購読等利用していますが、それが少しは役に立っているようです。
10066	祖母の介護。
10079	入居されている利用者といろんな話をすることで、知らない世の中のでき事や昔の話を聞くことができた。身体的なことでも知ることができた。時に自分自身ではわからない身体の痛みに対する対応方法を知ることができたので、同じ感じの痛みを訴えられる利用者に対して、あまり苦痛を与えない介助ができるようになった。
10080	専門学校での施設実習。
10085	自分の父親が、右マヒ・左下肢切断しており、発語も不十分なので、マヒに対する移動・着替え・排泄介助は、他の方に対しても同じようにできていると思いま
10086	夜勤中、1人で対応する緊急事態。



No.	関17 介護の仕事についての能力を高めた経験
10088	先輩からの指導と利用者の方に耳を傾け、誠実にこなすことにより、能力が高まっていくものだと思う。日々勉強です。
10093	知識・経験が浅く、人の人生に対する意気込みで仕事をはじめ、入居者の実態(症状)などが進む、机上の論でなく必要に迫られた上、経験深い上司などに講習会などで指導してもらおうと、自分の能力も高まる。
10094	初めて仕事に入った時は自然な声かけができなかったが、できるようになって来た。言葉が理解できない痴呆の方に対し、親しみと愛情を持って接すれば動いてくれ、笑顔も返してくれる。
10100	"能力"とは何のことを言うのかわかりません。介護の技術ならば年数を重ねれば上達すると思います。しかし、それより大切なことは、被介護者の心を汲むといふ思いやり」の気持ちであり、これは持って生まれたその人の天性ではないでしょうか。多少なりともそれを高めることができるのなら、それは、よい上司よい同僚のよい介護する姿に接した時や、自分の失敗から学ぶ時であると思います。
10102	講習会や他の施設での研修を受けたこと。職場のベテランから指導を受けて、在宅の経験により高齢者の方の考え方や思いに触れ、勉強になった。
10104	介護技術の勉強会に参加して全身清拭(おたぎりの人)や体位交換などが上手になった。
10105	介護の研修や講演会に行った。福祉に関連する番組を視聴している人との情報交換など。
10106	清拭の仕方の講習会を開いて頂き、即実行できることは、相手にとってプラスになったと思います。
10115	研修や講習に参加し学ぶことも大切だと思えますが、利用者と共に接すること、考えたり思っているサービスを実践することこそが能力を高めることと考えます。
10116	緊急対応(心マッサージなど)を経験した。
10117	研修に参加し、知らなかった情報を得たこと。 ①同施設内でのキャリアのケアスタッフの介護技術を、頼んで目前で見てもらって見せてもらったこと。自分との違いを認識でき、新しい発見につながって、自分のケア技術の改善につながった。 ②他施設での研修。ポリシーは同じでも、違ったりえ方がある顧客サービスのアプローチの仕方をいろいろ学んだ。
10120	ベテランの方々が手とり足とで教えてくれたことが、今まで一番役立ってきた。上手な人のそばでじっくり見せて頂くのも良い経験となっていると思う。
10121	たくさんのお患者さん、利用者さんをお世話させて頂いたこと。
10123	能力が高まっているのかは、まだ始めたばかりなのでわかりませんが、利用者さんとの会話などでとても良いことを聞いたなあと、思うことはたくさんあります。
10124	介護職について、1.5ヶ月にすぎず、これから能力を高めていきたいと考えている段階です。
10126	海外で放浪している時、いくつかの国で介護を経験した結果、利用者との接し方、職員同志のチームワークの取り方、上司としてのコミュニケーションの取り方、アクティビティのとらえ方、介護技術全てにおいて、スキルアップにつながったと思います。今となっては、放浪生活がこの仕事に役立ったと感謝して1つの介助を行なうとしても、10人のお年寄りが居れば、一人として同じ方法でいいということはない。10人居れば十人十色の介助が必要なんだということ、日々の仕事の中で、学ぶことが大切。(日々勉強です)
10133	ベテランの同僚からの、話を聞くこと。見ること。
10134	関連する本をできるだけ読むようにしている。
10136	能力を高めたかわからないが、救命対応する機会があり、貴重な経験ができたこと。今後に生かされたらと思う。
10137	まだ1ヶ月にも満たないので、毎日が勉強と経験の日々です。毎日少しずつ利用者の方とのふれあいが楽しみです。
10151	高齢者のアクティビティ支援セミナーや、県レクに参加。しかし、人手不足のため、休みが思うようにならず、残念である。
10152	分らない時は、先輩に確認。介護度の高い方々のお世話をさせていただく人間として、人間らしく人間なりにという考えで、入居者との信頼関係、人格を尊重し、入居者の声を聞き、時には反省のくり返しです。
10160	スタッフ同士の勉強会を増やす。NS(ナース)や他の職種との話し合いを多く持つ。
10163	身体的介護の仕事の中で、その方にあつた体位や移動などペースに合うようにし、自分にも体に負担をかけずに行えるようになったこと。
10170	研修の折、実際にやらせてもらえたこと。
10172	色々なスタッフの介護のやり方を客観的に見たり、他の施設へ見学や講習を受けたりしたこと。

No.	17 介護の仕事についての能力を高めた経験
10182	外部の有料無料講演会、シンポジウム、また本で学ぶことにより、知識が豊かになり、心のケア、精神的ケアに役立つ。
10184	施設内・外でのワークショップ、セミナーなどに参加。自分自身の課題・目標を設定していく。
10185	日々の業務。
10187	やりたいと思っている介護には全く携わっていないので、勉強にならない(自立している人のフロアにいるため)。苦労や人生の勉強をしに来ているわけではない。身体介護、口腔ケアなどをしたい。
10189	今のところはありません。
10196	色々なケースを経験すること。身体介護の場合は、麻痺の状況、程度による違いによって、介護される側もする側も無理なく楽にできるにはどうするか考えながら介護し実践する。痴呆の場合、失語症の場合など、一人一人の生活歴によって、介護状況が違ってくる。
10206	介護以外の勉強、政治経済、読書、音楽、美術など。
10207	仕事をしながら介護福祉士の資格を取る。自分の能力を高めるため、講習会に出席した。
10208	専門学校在学中に行った特養での実習。介護福祉士受験にあたっての勉強。ホームヘルパー2級取得時に行ったオムツ体験など、体験的学習。経験者と一緒に仕事をすることで、能力を高めたと思うが、今の職場だとこれ以上は高められない気がする。仕事内容は身体介護だが、やっている内容がウエイテレスに近いので。
10211	その場その場での適切な上司や、同僚からの指導や、ミーティングでの話し合いの中から。
10212	経験の無いことでも、まずやってみれば、それが勉強になる。
10215	同期と情報を共有したり、学んだり、話し合ったり、実務の中で身につけていく。
10217	実母、実姉の介護が一番能力を高めた経験です。
10218	ヘルパー2級の資格取得の前に、日本赤十字社家庭看護協会及び、東京都看護協会の家庭看護の講習会で学んだことは、現在大いに役立っている。また、痴呆ケアについては、「ほけ老人をかかえる家族の会」等の講演会に積極的に参加し、知識を深めている。
10220	少しでも疑問やわからないことがあれば、上司なり先輩なりに、こちらがわかるまで説明して頂いたり、教えて頂いたりしたこと。
10221	特に排泄介助は、ヘルパー講習期間中は実際に練習ができませんでした。介護の仕事を始めてまもなく、尿器を使用しての介助や、おむつ交換をすることが多く、最初はあまり思うようにできませんでした。ある日何人かの入居者様から、「ありがとう、とても親切ね。びっくりしたわ」「慣れてきたね」とおっしゃって頂けるようになり、とても嬉しく、そして自信ができました。入居者様のお気持ちを持ってこれからも介助するように心掛けてまいります。
10224	たとえ痴呆の人でも、失禁すると不安で動揺するし、羞恥心を持たれるので、とにかく明るく手早く、うまくきれいにすべきなのが排泄介助だと思います。申し訳ない」と恐縮されてしまったこと。
10225	身近に(前の職場時代)意欲的なヘルパーがいて、励みになった。
10239	研修等で教わった以上に、介護をする相手からの訴えや同僚の仕事のやり方から身につけた能力が多い。
10242	まだまだこれからはと思っていますので、更に経験を積みみたいと思っています。
10243	介護は初めてなので生活の全てを知ることから始まり、生活全てに関する仕事ややると分かってきた頃です。以前よりは不安は無くなりましたが、まだまだで
10244	まだ初めばかりなので経験がない。
10247	ほとんどが実務経験よりの積み重ねで、他は本や他の仕事場の方々の話しだと思っています。
10249	いろいろなことを経験する。(失敗も成功も)
10257	病院に4年ほど勤務、その中でヘルパー2級を取得して、能力的にも実務的にも高まったのではないかと思います。
10260	能力は、実際の現場で働きながら身につけていくものだと思います。また能力が高いのにこしたことはありませんが、それが即利用者に喜ばれるとはかぎらないと思います。相手が人間であり、その満足度も十人十色であるということ、ワンパターンではダメということも、経験してみないとわからないかもしれません。

No.	問17 介護の仕事についての能力を高めた経験
10262	実技講習。
10276	日々の仕事を積み重ねることにより、介護の能力も自ずと高まっていった、というのが実感です。
10278	人それぞれの生活感(スタイル、環境)など。
10280	特養などで働いているとき、体交1つで褥瘡にならないことや、トランス(移乗)で自分にも相手に負担をかけないやり方を教えて頂いた。
10281	トランス。
10283	特別養護老人ホームで仕事をしていたので、経営栄養の方や、酸素使用の方などの方法を実際に学ぶことができたことです。
10285	片マヒのある利用者さんに対して洋服の着脱、トイレ介助。
10287	研修(V7、医療)に参加したこと。
10289	日々の経験。
10294	特になし。
10296	在宅介護での仕事は、複合型といってもほとんどが家事援助なので、身体介護の経験ができず、現在働いている施設では、車イスの方、移乗などが全介助で男女の方、排泄なども全介助、入浴と、あらゆるところが介助が必要なため、最初は、ただ済ませる事ではいっばいでしたが、最近はどうやれば早く利用者の方が見えにできるのかを考へながら接することができるようになりました。
10306	前の施設で在宅看護を経験し、必要物品がそろわない環境での介護の難しさを味わった。いろんなもので代用したり。前の施設では、座薬・血糖値測定・導尿管等、なんでも介護スタッフがやっていた。
10319	施設における理念は「こうあったらいい」という希望にすぎないと思われ、能力は日々高められていると思います。ただ、有料老人ホームということもあり、利益主義の経営から人員の確保がされず、日常の業務に追われ、能力の高める時間がないのが現状です。
10320	スキルの部分でなく、コミュニケーションで、私はいつも相手の立場にたって物事を考えています。心からふれあいを大事にすると、信頼して下さいます。嬉しかった事は、「今日は貴女がいてくれるの、よかった。うれしい、安心してお願いします」と云われた時です。こんな私でも待っていて下さるんだと思います、介護の世界に入って良かったとつくづく思いました。
10325	以前の職場でベテランの寮母さんに1ヵ月ついて研修した。痴呆高齢者への対応や、入浴、排泄介助等、介護者に負担がかからない技術や、個々に応じたやり方を学ぶことができて本当に勉強になりました。
10331	利用者に対する対応の仕方。
10336	とにかくどんどん自分から経験すること。排泄やトランス、食事など数を多くこなして身につける。先輩にどんどん話を聞いたり実際指導してもらおう。
10339	痴呆に対するコミュニケーションについて。
10340	地域のケアプラザなどの講習会の他、実務経験を積み重ね、ケアプランなどを参照にししながら、要介護者のそれぞれのニーズに合わせて合わせたことが一番の能力を高めた要因だと思います。
10343	介護などの本を読む。不明な点は経験者に聞く。
10344	職業訓練校において、ヘルパー1級を取得でき、現在役立っている。
10351	初めての職種でしたので、どう対応していいかわからない日々がありましたが、対人コミュニケーション、時間をかけることの大切さを学びました。身体介護では、やっぱり回数数をこなすと体が自然と覚えると思えました。
10352	日々、入居者と接していることが能力を高めていると思います。
10356	利用者個人々に合わせたケアを、スタッフと話し合いながら色々な経験ができたことです。今の所ではまだ日が浅いため、これから色々な経験をつんで、能力アップにつなげていきたいと思っています。
10359	ヘルパー資格研修で学んだことを実母の介護で実際に実行確認し、実践したこと。
10361	痴呆の対処の方法は、福祉センターの図書館でのビデオ視聴。 1年半ほど病院で看護助手をしていた時、介護の仕事もしてみようと思った。(自分にもできるのでは…と) 事務系の仕事は向いていないので、体を使う仕事が好きなので、介護の仕事ががんばろうと思った。

no.	10362	10363	10364	10365	10366	10367	10368	10370	10372	10374	10375	10376	10378	10381	10382	10383	10384	10398	10401	10402	10404	10406	10407	10409	10410	10412	
	業務内容の実践。	祖母・義母の介護経験	施設の中で自立度の高い入居者フロアなので、ほとんど介護技術(体を使ったもの)を積み重ねることがありませんでした。末期ガンの入居者が、最期は施設でということと病院より戻ってこられ、ほんの数ヶ月でしたが、毎日緊張した介護の日々でよい体験をさせていただきました。	末期ガンの人の介護をしたこと。心身のケアに努めることができました。	日常のケアは、最初は不安ばかりでしたが、数多くこなすことでコツなどともつかめるようになりました。	末期のガンの方がターミナルケアを自ら施設を選ばれたことによる介護を経験できたこと。	能力を高めたどうかは分かりませんが、貴重な経験をしました。末期ガンの人のターミナルケアをすることができました。余命一週間しかない人が、このホームで2ヶ月生き延びられたことは、スタッフ一同の努力の賜物だと思います。最期を、みんなで見届けることができたと思います。	ホームヘルパー1級の研修を受講して、訪問先の実務を勉強した際の経験がとても役立ちました。	全ての面において、同じ職場の経験者による指導と職場内の勉強会で能力は高められたと思います。	日常生活に全く介助のいらぬだけ話し相手を要するだけの入居者から、全介助を要する入居者とは幅広い人達が利用しているホームですので。色々な面で勉強になります。	福祉専門学校で施設実習の経験。職場での介護経験。	職に就く前、教科書をもとにデスクワークをつみ、知識を身につけたが、実際に高齢者と接することが何よりも勉強になり身につくと実感しました。	救急指定の脳外(脳外科)に介護(職)として入職し、体の自由のきかない状態での対応の仕方が実際に行えたことが、今の仕事に生きている。	父を6年間に在宅介護していたこと。	同僚とのミーティングの中で、自分が行っている以外の知識や技術を知ること。	一人一人の対応が違うので、他のスタッフのやり方を学ぶことにより、楽な介護ができるようになった。資格取得時の実技のビデオを再度見ると、実感として学びとることができ役立った。	先輩からの適切なアドバイスだと思います。例としてトランスの仕方。	何の知識も経験もない真白な状態でこの世界に入りました。専門用語も何ひとつ理解できず、驚きの連続でした。介護用語の辞典や医療用語の略語辞典などを買って通勤電車の中で読み、先輩方の記録を見てその使い方を覚え、どんどん質問しました。実技的なことは、手とり足とり先輩方に教えてもらい、休憩時間に練習し、あとは絵がたくさん描いてある本を購入して参考にて覚えていきました。お年寄りも多く自然な日常的な会話を心がけることで、精神的な面で近づいていきました。	介護現場で引き起こる問題について、やはり先輩・他職種よりの助言・指導が一番の勉強になりました。また、チーム間での検討、話し合いなど他者よりの意見を多く聞くことは不可欠なことです。自分の考えだけではなく、他者との意見の相違の理解、聴く心は、自然に自己啓発へと結びついていくと、後によりわかりました。	他施設の方々(他職種も)と講習会などの交流。	仕事中的アケシメントやトラブルに対応することによって、経験が積めた。ベテランスタッフの指導・研修などで。	グループホームで働き始めて4ヶ月です。思っていた以上に責任の重い仕事だと痛感しています。今は一にも二にも二にも経験すること。いろいろな場面に出会って失敗や反省をくり返しながら、適切に心もった介護ができるようになりたいと願っています。	車イス対応の方への介助、トイレ介助、移乗等、夜間の体調不良の訴え→提携病院への連絡指示受け。	いろいろなタイプの利用者との生活でのかわり。	仕事をしている中でその都度すべて勉強になる。ミーティング、意見交換など。	在宅にてその人にあったサービスを提供しなければならぬ機会が多くあった。	実母と義母を15年程入院介助し、その間看護婦さんや付き添いさんに色々教えていただきました。その時の経験と気持ちに役に立っていると思います。